

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	第7回山口市総合計画策定協議会
開催日時	令和4年10月27日(木曜日)15:00~17:30
開催場所	防長苑 2階 孔雀
公開・部分公開の区分	公開
出席者	進士正人委員、今村主税委員、藤井智佳子委員、橘康彦委員、佐藤真澄委員、桑原智恵委員、小山文彦委員、白石レイ委員、鈴木春菜委員、于佳男委員、永久弘之委員、戸田岸巖委員、重村奈津枝委員、小野哲委員、安光忠彦委員、粉川妙委員、田中貴光委員、手嶋郁夫委員、郡さやか委員
欠席者	坂本京子委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 第6回山口市総合計画策定協議会以降の状況</p> <p>(2) まちづくりの状況(協働・行政分野)</p> <p>(3) 今後の予定</p> <p>(4) 第二次山口市総合計画 後期基本計画 骨子案</p> <p>(5) 安光 忠彦 委員からの話題提供</p> <p>(6) 粉川 妙 委員からの話題提供</p> <p>(7) 手嶋 郁夫 委員からの話題提供</p> <p>(8) 郡 さやか 委員からの話題提供</p> <p>(9) 意見交換</p> <p>4 今後の日程</p> <p>5 閉会</p>
内容	<p>次第に基づき、以下のとおり進められた。</p> <p><u>1 開会</u></p> <p>【事務局】</p> <p>(資料の確認、欠席委員についてのお知らせを行った。)</p> <p><u>2 会長挨拶</u></p> <p>【会長】</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>季節も変わってきました、寒くなりつつありますが、この会議はもうあと2回と聞いております。いよいよ熱い議論が必要になってきていますので、今日もぜひ、よろしく願いたいと思います。</p> <p>まず、会議に入る前に、皆様にお願いがございます。会議の議事録を作成しております。発言内容を録音させていただいております。そのため、お手数ですが、発言</p>

する際は、マイクの御利用をお願いしております。また、本日は17時半の終了を予定しておりますので、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

### 3 議事

#### 【会長】

それでは次第に従いまして、議題に入らせていただきます。まず議事の1から4について、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

#### (1)第6回山口市総合計画策定協議会以降の状況 ～

#### (4)第二次山口市総合計画 後期基本計画 骨子案

#### 【事務局】

〔資料1〕「第6回山口市総合計画策定協議会 説明資料」、

〔資料2〕「第二次山口市総合計画 後期基本計画 骨子案」について説明を行う。）

#### 【会長】

ありがとうございました。

ただいま、「資料1」と「資料2」の御説明をいただいたところですが、まず、資料1に関しまして、御質問・御意見等あればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

私から質問をさせていただきます。なぜ、マイナンバーカードは、こんなにも普及しないのでしょうか。

#### 【事務局】

マイナンバーカードの普及率が伸びていないという御指摘かと思えます。サービスの提供のあり方がまだ見えにくいというところもあると思っております。

山口市においても窓口を設置して、マイナンバーカードの普及促進に努めておりますので、どのようなことに使えるかという実際のサービスについても、併せてしっかりと情報発信をしていく必要があると思っております。

#### 【A委員】

11ページの「男女共同参画社会の実現」ということで、以前から気になっていたのですが、市役所の職員の方の男女の比率を教えてくださいませんか。

私も、市役所に3年間、「地域おこし協力隊」としていたのですが、優秀な女性がいらっしゃるのに、管理職にはなられてないケースも多いと思いました。これには何か理由があるのでしょうか。私たちの世代は、男女平等に教育も受けてきましたので、なぜその辺りが進まないのか。まず、市役所からと思ってしまうのですが、御意見をお聞かせ願います。

**【事務局】**

市職員の男女共同参画というところでいいますと、役職が上がるに従って、女性の比率は、非常に少ない状況にあります。

一方、20～30代は、正確な数字を覚えていないのですが、女性比率が高いというところもあります。“管理職予備群”と言われる「課長補佐級」あたりが、約20%くらいまで女性比率が上がってきています。

御質問の「なぜか」というところではありますが、少し前までは女性の退職というところが市役所の中でもございました。同時に、人事の希望をとるのですけれども、女性のほうが「昇進／昇任したくない」という比率が高い傾向にあります。これは、「ああいう上司になりたい」というロールモデルが不足しているという声もありますので、少し時間をかけながら、時には積極的な登用をしながら、改善していかなくてはいけないのかなという議論をしている最中です。

**【会長】**

ちなみに、7ページの資料に「管理職に占める女性職員の割合」という指標がありまして、目標値10%で、実績値も10%を達成したようですが、これは決して多い数字ではないと思います。国全体では、3割の登用率を目指すなど言われていますので、この辺りは考えたほうが良いのかなと思いました。

「審議会等の女性委員登用率」を見ると35%の目標に対して、約28%まで達成してきているようです。この協議会のように、男女比が半々ぐらいになるように、少しずつ進めていけると良いと思います。我々は、「ダイバーシティは活力の根源である」ということをよく言っています。いろいろな意見が出るのが大事な事かと思っておりますので、ぜひこれからも女性登用を進めていただきたいなと思っています。

他に何かございますか。

**【B委員】**

この策定協議会に参画と言われたときに、「女性の登用をしたい」という方向性を伺って、逆に残念に感じました。「女性だから」ということで選ばれたくはないです。「必要とされている」から選んでいただきたいと私は感じました。

ただし、文化分野の現場では、女性はかなり多いと思います。傾向として、女性は感覚的なものが優れているということも言われますので、女性の積極登用と得意な能力のバランスを図っていく必要があり、山口市自体から変えていきたい。「女性も頑張りたい」と思っています。

**【会長】**

他にいかがでしょうか。御意見ありますか。

**【C 委員】**

私が働いている大学は、女性も昇格している人が多いのですが、今、おっしゃられたのと同じことなのですが、大学においても、何かをするのに「男1人・女1人を選んでください」と言われたりすることもあります。医学部の女子の入学率が問題になったこともありますが、先ほどおっしゃったように、「男だから」「女だから」ではないと思います。

私は、福祉分野が専門なのですが、福祉分野では、当事者は、「議論に入れたほうが良いから、入れる」ではなくて、「その人の意見が欲しいから、入れる」。例えば、子育てのことでも、子育てをしている人に子育ての意見をもらうのか、子育て支援をしている人にもらうのか。それはその時々目的によって、どなたに意見をいただくべきかは違うと思います。その辺りのところで、辻褃合わせみたいなことを感じることもあったりします。

**【会長】**

ありがとうございます、男女共同参画ということに関して御意見をいただきました。

あとは、デジタル化に関しても、今、とても頑張っているから、ぜひ、デジタル技術を活用して、定型業務は出来るだけ省力化して、その分のリソースを対人的なサービスに重点的に割り当てていただくということは、とても重要だと思います。ただ、デジタルで全部出来るとは思っていませんし、「マイナンバーカードは持たなくて良い」という意見もあったりするようなので、うまく推進していただけたらと思っています。

それでは、こうしたこれまでの我々の議論を整理していただいた、「後期基本計画骨子案」を、本日初めて「資料2」というかたちでお示しいただいたところです。これは委員の皆様方に議論いただきたいと思っています。これまで御意見されたこと、御指導いただいたものについて、「これが抜けているのではないか」というような御指摘であるとか、「ここはこうした書き方のほうが良い」、「私の質問とは違うものが入っている」など、気になるところがあるのではないかなと思っています。

例えば、資料2の3ページ。まずは、策定に当たっての視点ですね。「農山村と都市が共存共栄するまちづくり」が必要だ。2番目として、「今の市民生活を豊かにし、安心して元気に暮らせるまちづくり」が必要だ。そして、「未来に向けたチャレンジを支えるまちづくり」が必要と示していただいています。それに対して、「自分の思いと違う」とか、「ここはこれで良い」とか、御意見いただけないでしょうか。いかがでしょうか。

私は、1番目の「農山村と都市の共存共栄」について、山口市という市域を考えたときに、まさにそうだなという印象を受けています。21地域では、持っている地域課題がかなり違うと思っています、こうした違いをしっかりと区分したうえで考えるべきだと思います。

これに関連して、今日、参考資料として資料を追加していただきました。この説明をいただいているのですか。

**【事務局】**

参考資料でございます。こちらは、委員限りの資料でございます、「共につくる未来

懇話会(若者・子育て世代)」の実施報告ということで、21地域からいただいた御意見をまとめたものになります。

1ページめくっていただきますと、開催状況をお示しております。6月～9月にかけて、地域における若者の方、子育て世代の方に御参加いただきました。高校生の方が参加された地域もございました。

2ページにございますように、オレンジ色の農山村エリアの9地域と、それ以外の白色の部分、いわゆる都市核周辺のエリアとでは、出てくる意見も異なっているというところがございます。

3ページから、開催順に掲載しておりますので、まずは、大歳地域からになります。「道が狭い」とか、交通安全対策に関する御意見が多く見られました。あとはやはり、「子どもの遊び場が少し不足している」という御意見をいただいております。

次のページにまいりまして、5ページは、オレンジ色でマーカーしていますように、農山村エリアでございます。鑄銭司地域です。こちらでも「子育て世代の方の遊び場」という部分はあるのですが、「通信環境を充実させてほしい」といった御意見でしたり、農地の中に荒廃している土地もあって、空き家もありまして、こうした「土地をしっかりと活用したほうがいいのか」という御意見をいただいている状況です。

特徴的な地域を申し上げますと、15ページの小郡地域については、JR新山口駅もございまして、「アクセス性に関しては全く問題がない」という御意見や、逆に「スーパーなど少し足りないところもある」という御意見も出ております。

また、21ページの阿東地域は、過疎地域になります。こちらでは、「学校をどうしていくのか」といった御議論が多く出てきました。同じく過疎地域の徳地地域や、農山村エリアの名田島地域、陶地域の中でも同じような御意見をいただいております。やはり、地域の中で学校が無くなることへの不安であったり、阿東地域にも複数の小学校がございしますが、統合したほうが良いのではないかとといったような御意見をいただいているところです。それに伴いまして、子どもの通学に関する御意見であったり、「塾が無い」といった御意見もございます。白石や湯田といった都市部については、歩いて塾へ行くのですが、農山村エリアについては「そもそも地域内に塾が無い」という課題もいただいているところでございます。

農山村エリアと都市部での御意見の違いについては、以上です。

#### 【会長】

ありがとうございます。

こういうまとめ方をさせていただいて、この中から地域の課題を抽出していこうということです。何か御意見等ございますでしょうか。

#### 【D 委員】

すみません。少し資料が戻るのですが、資料2、骨子案の8ページの中央辺りに「歩いて暮らせるまちづくりに向け～」というキーワードがあって、10ページの中央辺りに

は、「国道・県道と連携した道路ネットワーク網の構築の必要性」と書いてあるのですけれど、「道路ネットワーク網の構築」というのは車道なのか、歩道なのか、どちらなのでしょう。もし、車道ということだったら、この「歩いて暮らせるまちづくり」と矛盾しているのかなと思いました。この「歩いて暮らせるまちづくり」というのは、具体的にどういうことをイメージされているのでしょうか。

**【事務局】**

まさに一見、相反するような記載なのですが、まず、山口市で「歩いて暮らせるまちづくり」として、モデル的に進めているのが、白石の中心商店街エリアです。その中の一定のエリアを「歩いて暮らせるまち」として設定し、その周りを外周道路としてぐるっと取り囲むように道路整備して、そこへのアクセス道路もきちんと整備していく。そして、外周道路周辺に駐車場を分散化させて、そこへ車を置いて、その中は歩いて暮らせるというかたちをイメージしています。

先ほど、子育て世代の未来懇話会の白石地域において、「街中は家賃が高くて、住みたくても住めない」という御意見も実はありました。そうした中で、地方都市としての肝となるのは、夫婦で2台車を持っているのを1台に減らしてでも、歩いて暮らせるまちづくりを進めておくと、コンパクトシティ化とか、まちなか居住も含めて、しっかりとしたまちづくりの方向性を出せるのではないかということもありまして、道路網と歩いて暮らせるまちづくりのふたつを並列して書いているところです。

**【E 委員】**

今、御説明いただいた点について、広域道路ネットワークと、歩いて暮らせるまちづくりの両立が必要と思っているところです。歩いて暮らせるまちづくりの実現には、歩いていただくための公共交通についてもネットワーク構築の視点が必要だと思います。

やはり公共交通は、「維持・管理」で終わっているところに、もどかしさを感じております。国でも、「地方公共交通は再構築をしていくべきだ」というような提言が今年度、いくつかの協議会で出されておりますので、ぜひ、再構築やネットワーク形成などを入れていただくと良いと考えています。

**【会長】**

ありがとうございます。他に御意見はございませんか。

**【C 委員】**

3ページの「政策グループ」について、今から変えられないことは分かっている上での意見ですが、今、教育委員をさせていただき、恥ずかしながらそこで感じたのが、図書館や社会教育が教育委員会の所管だと改めて知りました。一方で、一般的に考えて「教育」と、4つ目のグループの「子育て」は、すごく近いと思うのです。

今、幼稚園・保育園は一体的になっていますし、8ページにある「子どもの居場所づく

り」とか「放課後児童クラブ」とか「放課後等デイサービス」は、学校とかなり密につながっているし、次のヤングケアラーの問題は、不登校になってしまったりという学校の課題にもつながっています。あるいは、特別な配慮が必要な子どもたちが不登校になる問題については、福祉分野との連携がとても大切になってくると思うのですよね。

「教育」という括りはあまりにも大きくて、「教育」とついたらすべて政策2と考えてしまうと、なかなか難しく、でも逆に福祉の政策1となると、高齢や障がいがあって、またかなり大きくなってしまっているので、いろいろと行政の中でも難しい問題だなと、これを見ながら感じました。

#### 【会長】

他にいかがでしょうか。

私が個人的に思っているのは、重点的に対応を進める領域として、「元気な県都づくり」に入るのかなと思うのですが、今日御意見いただいたように、「子どもたち」とか「お年寄り」とかいうのは書かれているのですが、「若い人」という視点が抜けているような。「若い人にとって魅力のある山口」というのが、何か読み取れない気がするんですね。レノファ山口は、若い人にとってはすごく魅力的な場所だと思うのですよ。若い人にとって楽しいものがある「県都山口」というようなことがあってもいいのかなと個人的には思っているところでございます。

他にございますでしょうか。

#### 【A 委員】

先ほど、阿東地域からの意見なのですが、学校まで遠いとか、塾がないということが記述してあって、学校教育の周辺環境の課題があるなど率直に思いました。農山村エリアを盛り上げようと言っているのに、これだったら現状、大人になった農山村の人たちは盛り上げられるとしても、その人たちが「そこで子どもを育てよう」とか、若い夫婦が「じゃあ、そこに行こう」とはならないのではないのでしょうか。土地の魅力とか、農業とかそういう魅力だけじゃなく、子どもたちの教育はどうなるのだろうかという不安を抱くような気がするのです。なので、農山村の過疎化の問題というのであれば、その辺の教育のフォローも必要だなと思いました。

山口高校の分校が廃校になるのを聞いて、地域の方の声なのですが、廃校になる校舎を何とか利用できないかという声が上がっているようです。例えば、特区のようなかたちで、そこを養護学校にして、全国から学生を募るとか、そういう思い切った生徒集めをして、存続させたらどうかというように動いているというのは、ちらっと聞きました。なので、地域の方の声もよく聞いていただきたいですし、「いやいや、それは県立高校だから」という縛りもあるかもしれないですけど、何か市でも動けることはないのかなと思っています。

【会長】

ありがとうございます。何かよろしいですか。

今回、参考資料として整理をしていただいたので、すごく興味深く拝見させていただきました。ぜひ、委員の皆さん方も、今日はいきなりお見せしたので、またゆっくり見ていただいて、「こんな御意見があった」というのを感じていただければと思います。僕も全体を見せてもらったのは初めてで、こんな意見があったのだと思っていました。

よろしいでしょうか。また後で、時間があれば戻って見ていただくことにして、それでは、若干遅れてはいますが、安光委員からの話題提供を受けた後で、休憩を入れようと思います。お願いします。

(5)安光 忠彦 委員からの話題提供

【安光委員】

皆さん、こんにちは。

山口市自治会連合会からやってまいりました安光でございます。本日は皆さんの前でプレゼンするというので、大変緊張しております。

この発表資料ですけれども、市の協働推進課の全面的な支援に基づいて作成しております。大変良くやっけていただいております。ネタ元なんですけれども、ここに「自治会活動の手引き」というのがございます。これは自治会活動をする時のバイブルといっても過言ではありません。毎年バージョンアップされているようです。大変良く出来ております。それでは、この手引きと市のHPなどを私なりに勉強させていただいて、本日、皆様にいろいろお知らせをしていけたらと思います。

まず、「自治会」とは何ぞや、というところから。皆さん、自治会に加入されていますよね。お話しても「分かっているよ」ということだろうと思いますけれども、自治会とは、地域においていろいろな問題がありますけれども、そういう問題に対して、住民同士が協力・連携して自分たちの住んでいる地域を良くしようよといった団体と。改めて文言に置き換えれば、そういう団体になります。地域によっては「町内会」とか「区会」といった呼び方もございます。私のところは、秋穂地域の中野区会で、私が「区長」という立場になります。

市内の自治会がどのくらいあるのかということで、この表なんですけれども、合計で767ございます。結構ありますね。阿東・徳地地域では、100を超えますね。阿東・徳地は、以前、村が合併し、阿東町・徳地町ということになっていますので、自治会数も多いということです。では、自治会ってどのくらいの世帯で構成されているのかといいますと、なんと、1,000世帯以上の自治会が3つもございます。びっくりですね。1,000世帯ですよ。吉敷上東がトップで1,276世帯、それから吉敷地域の佐畑、湯田地域の西朝倉という3つの自治会が1,000世帯以上で構成されているということなのですが、片や、1番下ですね。1～10世帯が93自治会。なんと、1世帯で構成されている自治会もある。11～20世帯も122自治会と、結構この規模の自治会が多いのに驚きました。ちなみに、私のところの秋穂地域中野区会なのですが、正会員123、準会員34、法人3と



いうことで合計160世帯です。準会員の34というのはアパートとか、それと法人の中に「セブンイレブン」の弁当などを作る工場がありまして、ベトナムの方やブラジルの方の寮がございます。こちらを準会員と位置づけまして、自治会に加入いただいております。

次に活動内容です。記載しているとおり、主に6つあります。

広報物の配布。これは中野区会の場合、区長の私がやっています。今日も、市報が届きまして、班に仕分けして、班長さんに届けたり、法人さんや準会員さんのところにもお届けするというようなことを午前中にやっておりました。それから、リサイクルの推進。分別ですね。ごみの分別は住民の仕事、収集は市の仕事ですけども、リサイクルを住民の立場で自治会活動として推進しています。防犯と防災、子ども会、イベントや行事、敬老活動などが主な活動内容になります。

次に、「自主防災組織」について。自治会の中には、自主防災組織という組織を構成している自治会がございます。これは市が認定をしている組織です。防災というのは、私が考えますに、自治会活動の要と思っています。「自助」、「共助」、「公助」という言葉がございますけれども、共助、それから御近所の近助、このあたりはやっぱり防災が要だと、私自身は思っております。そういった自主防災組織についてですが、これは地域の方々が自発的に初期消火、救出・救護、避難、給水・給食などの防災活動を行うということで、主体は自治会でございます。21地域にある消防団とは違います。これまた私が住んでいる中野区会の話なのですけれども、昭和の時代、いわゆる消防署がない時代がございました。その頃、区が運営する自衛消防団という組織がございました。今も続いております。その自衛消防団が母体となって、区会役員、民生委員さんなり、社会福祉協議会の福祉委員さんといった、お世話される方がいらっしゃいますけれども、中野区会の会員は自衛消防団が母体となって、自主防災組織を構成しております。自主防災組織は、市内にいくつあるかと申しますと、228ございます。これは、自治会の総数が767ですが、228/767ということではありません。佐山に「1」という数字がございますけれども、佐山では、地域全体、12自治会をひっくるめて、全体でひとつの自主防災組織を立ち上げられており、12自治会はその下部組織といった構成になっているようであります。

次に、自治会の課題についてです。ここにあるように自治会加入率の低下が課題と思っておりますし、もっともっと本当はいろんな課題があろうと思います。まず、担い手が大変不足している。会長とかお世話をする成り手がないといった問題。それからコロナ禍なので、総会、夏祭り、老人クラブの百歳体操など、こういう活動の制限がございました。自治会加入率の低下。第3回のこの協議会の資料でもございましたけれども、今、市全体では、77.5%の加入率ということでございます。加入率の低下なのですけれども、年をとって、体が動かないので活動が出来ないといった問題とか、役員をしなければならぬし、近所付き合いが負担であると思う人がおられること、情報はネットで入手できる時代であること、また、マンションではごみ処理を管理組合が行っていることで、わざわざ自治会に入らなくても、生活できる・・・など、加入のメリットを感じるこ

ができないという状況でございます。

人口減少、高齢化社会など、今、そういう社会現象がございますけれども、人口が減少したら住民サービス、これが減るのか。減りませんね。事務局からの参考資料でも21地域で意見がそれぞれ違いましたけれども、いろいろな問題やニーズが出てきます。じゃあ、そのニーズに対応するにはどうするんだ。「やってほしい、やってほしい。行政は何もやってくれない。」ということでは、何の解決にもなりません。行政も財源やマンパワーは限られています。では、どうするのでしょうか。自治会、行政、市民活動、事業者等を連携させる仕組みが必要だということで、山口市の施策として「協働によるまちづくり」が進められているところです。

では、「協働」とは何でしょうか。協働とは、ここにいろいろと書いています。「市民と行政、市民と市民活動団体、行政と市民活動団体、市民同士など、それぞれが相互に相手の特性を理解、尊重し、共通の目的に向かい、責任及び役割分担を明確にし、ともに取り組むこと」です。実は、ちょっとこの辺りを勉強しまして、平成19～20年のHPに議事録を見つけました。平成19～20年に「協働のまちづくり市民会議」というものが開催されております。これは何をするのかということ、山口市では協働の条例が作られているのですけれども、この条例の素案を市長へ提言するという目的がございました。委員は24名。そのうち、なんと20名が公募委員。ちなみに24名のうち、男性が9人、女性が15人。この捉え方は、先ほどからいろいろ議論されましたけれども、いろいろな分析が出来るかと思えます。全18回の会議が開催され、意見交換会やワークショップ等の経過を経まして、市長さんに提言をされております。この条例が規定していることについて、ざっと書いてありますけれども、「基本理念」とありますように、理念条例でございます。平成21年4月施行。「市民は、主体的にまちづくりに参加するよう努める。」、「市民及び市は、自助、共助、公助という社会の役割分担のあり方にに基づき、それぞれの果たすべき責任、役割を理解し、まちづくりを推進する。」、そういう理念が条例に掲げてあります。この市民とは、イコール居住者、働く人、学ぶ人、公的活動を行っている団体、これらを含めて「市民」と規定されております。

次に、「協働の領域」なのでございますけれども、条例で規定している範囲というのは、②市民主導、③市民・行政、④行政主導のこの3つの範囲になろうかと思えます。自治会活動は、②市民主導のところになろうかと思えます。③市民・行政は、地域防災なんかが入ろうかと思えます。また、④行政主導のところなんですけれども、今回のこの協議会ですね。行政計画の策定に対する参画、これは④になろうかと思えます。後ほど出てまいりますけれども、「地域づくり協議会」について、これは私なりの位置づけなんですけれども、②市民主導と③市民・行政の間ぐらいかなと思っております。

次は、「地域づくり協議会とは？」ということで、実は、平成21年3月に、最初の「山口市協働推進プラン」が策定されております。これは、協働を着実に進めようということで、「地域づくり協議会」、それから、「地域交流センター」が位置づけられております。昔は公民館と言っておりましたけれども、今は、「地域交流センター」と呼びます。先ほど言いましたけれども、合併後の山口市は、1,000㎦を超える、とても広い面積を抱えてい

ますので、やはり、その中で個性を出していくには、協議会という組織づくりが大変役に立つのではないかと考えています。左側の組織図ですけれども、私が住んでいます秋穂地域の地域づくり協議会は、その名称が「たのSEA秋穂づくり協議会」。ちょっとふざけた名前なのですが、これは前身がありまして、町の時代に、あいお祭りを開催するときに商工会、農協、漁協といった構成で、「たのSEA秋穂づくり推進会議」という組織がありました。そこから発展してきたという位置づけを秋穂では持っています。構成団体は、民生委員さん、防犯・交通安全協会、変わったところでは、図書館と友だちの会、ボーイスカウトといった団体で構成しております。「地域づくり計画」というものを作りまして、いろいろと事業を進めているところです。地域づくり協議会は、第2次山口市協働推進プランにも書いてあるように、様々な団体の話し合いの場を作って、まちづくりを進めようということになります。

では、「自治会」と「地域づくり協議会」は、どういう関係になるのか。図の左側、「自治会・町内会」という単位自治会。右側にいろいろな団体がある。それをつなげていこうというのが「地域づくり協議会」ということになります。

地域づくり協議会は、市からいろいろな支援をいただいております。ここに書いてありますのは、自治会の活動に対する市からの支援です。自治振興交付金は、活動に対する支援ですね。あとは、集会所とか防犯灯とか、そういったものについて手厚く支援をいただいております。

あと、これは、秋穂地域の中野区会、私どもの地区の写真なのですが、まず、清掃活動ですね。高齢化しております。体に鞭を打って草刈り機を扱っています。それから、これは溝さらいですね。これは水路です。右側がビフォーですね。こういった状態のところを市に相談しまして、左側のように整備をしていく。防犯灯につきましては、設置時にも補助をいただくのですが、維持費に対する市からの支援もございます。修理にも支援があります。

次に、中野区の盆踊り。今は、コロナで開催できていないのですが、この写真、正面に見えるのは自主防災組織、自衛消防団と言いましたけれど、火の見櫓がまだあるんです。手前の提灯には、「青年団」と記載がありますね。昭和の時代の青年団提灯をまだ使っています。自衛消防団って、飲んでばかりなのですが、飲むことに対して中野区会が支援をしている。それを住民が認めている、いわゆる若者の異業種交流です。彼らが頑張ってくれて、焼き鳥とかを焼いて、夏祭りを盛り上げてくれている。これは、私の思いなのですが、これが、災害が起きたときの炊き出しの訓練と位置づけております。子どもたちも大変喜んでおります。向こう側ではかき氷をやっております。おばちゃんたちも踊ってくれていると。

次に、秋葉社、これもメイン行事です。秋葉社というのは、この参道の奥が秋葉社と言うのですが、全国にある火除けの神様のひとつで、防災につながります。神仏習合の形態をとっておりまして、神道と仏教が融合しているような状態。下にお寺がありますけれども、お寺のお坊さんが守りをしてくれています。私なりですが、中野区会の認定の文化財、そういった位置づけをしております。自衛消防団主体で、周辺の里山

で、津波が来たら住民の集合場所はここ秋葉社だよといった考え方をしております。屋根の葺替えはお寺さんと中野区会が半々で葺き替えをしたという。中野区会の文化財でございますので、こういったやり方をしております。

そして、奉納相撲大会。写真が30年40年も前で申し訳ないですが、この行司をしているのがなんと若い頃の私です。

また、この床下浸水ですね。8月5日に秋穂地域では、朝7時から8時の1時間に94mmの雨が降りまして、私どもの1世帯、川から越流してきて、こういった床下浸水になったのですが、市から職員にすぐ来ていただいて、対応していただいたところです。

次に、「飛び出し注意」の看板です。これは、地域づくり協議会の支援をいただいて設置したものです。右側がちゃんとしたものなんですけれども、左側、車で踏みつけられて曲がったので、私が家に持って帰ってトンカチで直しました。これも区長の仕事です。

次に、通学路の清掃について。これはビフォーの写真ですね。反対からの角度ですが、アフターの写真は、とてもきれいになりました。これも地域づくり協議会から支援いただきまして、1㎡38円の支援をいただいております。もう1ヶ所、中学生の通学路のこういった作業風景ですね。これをきれいにしたと。そういうことで、地域の皆さんと一緒に頑張っております。

私からの発表は、以上です。どうもありがとうございました。

#### 【会長】

安光委員、ありがとうございました。大変面白く、良い勉強になりました。

何か御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。あとで個別に聞くということで、よろしく願いいたします。

それでは、一旦、休憩に入ろうと思います。5分後に会議を再開いたします。

#### (6)粉川 妙 委員からの話題提供

##### 【会長】

それでは始めたいと思います。粉川委員、よろしく願いいたします。

##### 【粉川委員】

皆さん、こんにちは。

私が本日話す内容は、「イタリア帰りのよそ者が提言する地域活性めそっど」という、大仰な題をつけておりますけれども、私の経験も踏まえて、この内容を話したいと思います。

私は、1975年に兵庫県で生まれまして、そして、4年生大学卒業後、7年間、MR職—製薬会社の営業の職をしまして、その途中、旅行で立ち寄ったイタリアに魅了され、そして、職を辞めて、食のライターになるべくして、2005年にイタリアに渡りました。その後、結局11年間、イタリアに住んでいたわけですが、その途中で、イタリア人の夫・ロベルトと出会って、結婚します。元々関西人だからかもしれないですが、

“アンチ東京”でして、都市よりも田舎派でして、イタリアの魅力は地方にあるということをもットーとしておりました。赤字で書いてある「夫が日本移住希望」ということで、イタリアが経済的に行き詰まっている時に、「じゃあ、日本に行こうよ」と言うものですから、いきなり行ってもなと思ひまして、昔から興味があった地方活性の仕事をしよと思つて、総務省の地域おこし協力隊のHPを見ました。その中で、山口市が「大殿をアートで活性化する」というテーマを掲げていましたので、「山口市…行ったことないけれど、何か素敵そうな地方都市だな」という私のアンテナがひらめきまして、無事、そちらが受かりまして、2016年、山口の大殿に引っ越してきます。案の定、ロベルトは大殿地区が大好きになりまして、退任する頃には、大殿で地元の料理、スポレート料理を出すレストランを開こうと着任後1年経った頃に言い出して、それで2年ぐらひかけてレストランの準備をするわけです。そして、今年の10月でそのレストラン「イタリア食堂ベケ!？」は3周年を迎えます。

MRを辞める前に、私はこう見えて慎重なところがあつて、1回旅行で行ったけれど、もう1回ショートステイして、イタリアが本当に自分に合うか確かめてみようということので、MRの職務中ですけれども、シエナという町に短期料理留学に行きました。そこで、やっぱりイタリア人は料理好きということで、結局、仕事を辞めるわけですが、その時からシエナの市庁舎、市役所ですね。その「平和の間」にある「善政の寓意」というフレスコ画がすごく気に入りまして。心を動かされたフレスコ画になります。

こちらは、14世紀にアンブロージョ・ロレンツェッティという画家が手がけたものですけれども、「平和の間」ということで、善政、善い政治が行われると、このように町はなりますよと、隣続きで描かれたものです。なので、上の絵の右端には城壁がありますけれども、その城壁がそのまま下の絵に続いておひまして、横長の1枚のフレスコ画になってございます。なぜ、私が心惹かれたかといひますと、シエナのまちなかは、当時、フィレンツェと覇権を争うぐらひのとても豊かな町だったのでですね。実は、1400年代に「モンテ・デイ・パスキ」という世界最古の銀行が生まれたのも、こちらのシエナでございまして。なので、経済的にも政治的にも非常に成熟したまち。正しい政治が行われると広場に人が集まって、屋台が立ち、そして、家はきれいに整えられ、商人たちが働いていく。農民たちも働いていて、そして、それから下の絵になりますけれども、城門の外には商いを行う者たちの列があり、そして、農民たちが身を粉にして働いているわけです。そして、注目すべきはその下の絵の風景で、丘ですとか田畑が非常に整っているところですね。人々が手を加えて、そして整備している、その様子が見てとられます。町と城壁の外の農村地が一体となって豊かになっている。そして、経済も回っているわけですね。その穀類とか野菜とか、あと、豚飼いが多く、豚とかもいるのですけれども、そうやって、それを町に出して、町の人を買って、というように、経済が潤っており、商人たちがやって来る。そして、そこで税金をとる。銀行でもTAXというのがとれるわけですし、町ごとに紙幣・貨幣が違ひますので、そういったところでも銀行も儲かるでしょう。こうして話したらめっちゃくちゃ長くなりそうですけれども、要するに、都市部と農村が一体になって、豊かな生活をしているということが分かります。

そして、こちらの郊外の風景、実は、14世紀のフレスコ画から脈々と続いておりまして、なんと2004年には、ユネスコ世界遺産に登録されるわけです。こちらは、人類の歴史上、重要な時代を立証するという人の技術の集積、または、景観の優れた例として、あれから600年、コツコツ手を入れて、ついには奥側の<sup>おくち</sup>坏と呼ばれる泥炭の非常に開墾の難しいところまで手を入れて、青々としたオリーブ畑もありますし、村々もありますし、ピロードのような景観を紡いでいくわけです。これが本当に、持続可能だなど私、感動しました。

そして、ここで持続可能な、都市部と田園が共栄するカギは何だろうと思ひまして、そこで、こちらに載っております『イタリアのテリトリー戦略』という最近読んだ本の中から、ひとつのメソッドを今日、御紹介したいと思います。

この「テリトリー」は法政大学の陣内教授によると、「都市と周辺の田園や農村が密接に繋がり、支え合って、共通の経済・文化のアイデンティティを持ち、個性を発揮してきたそのまとまり」です。なので、先ほどのシエナのように、町と田園が一体になって支え合って、そして経済の動きもあり、文化も外の農民も「僕たちのシエナの人民だ」というのでアイデンティティ、誇りがある。そういうことがテリトリーという言葉です。

そして、「コモンズの精神」。こちらは、「コモンズ」というのは、共有財産ということですが、法政大学の木村純子先生が非常に難しい言葉で説明していますけれども、「社会関係資本を地域で共有すべき価値として人々に認識させ行動させる価値概念」。こちら、ちょっと分かりづらいですけれども、共有財産ですね。例えば、下に載っていますけれども、もし、村人が主体だった時代、このコモンズの精神があった時に、「この村の農地や景観、町の文化遺産はわたらのものだから、子や孫の世代まで残すで」みたいな感じで、すごい誇りを持って、そして手を加えて、共通の認識財産として捉えるわけですね。片や、「コモンズの精神」が失われて、行政サービスが充実してくると、「田畑が荒れても、役所は何もしてくれへん」というように、ちょっと人任せになってしまうことがあります。

ですので、「テリトリー」と「コモンズの精神」を持つということが、持続可能なまちづくりの基本になります。同じことですが、そのふたつを持ちますと、持続可能な山口市になるということで、山口市の都市部と中山間地域が一体となり、郷土愛、コモンズの精神を持ち、何世代にも続く豊かなまちになるということになります。そのために、具体的には何をしたらいいんだということをちょっと御紹介したいと思います。本からの抜粋なので、この木村先生は、農業活動のことを結構書いてらっしゃるので、この図は「持続可能な農業活動による価値の発生論理」ということで、農業の視点からお話をさせていただきます。

こちらは「アミアータの栗」ということで、先ほど見ていただいた風景の奥側の雲に隠れている山がアミアータという山なんです。「聖なる山」と言われております。手前のシエナ側はすごく繁栄していたのに、奥側は、実は街道から一時外れてしまひまして、かなり貧しくなってしまうわけですね。このアミアータのエリアですけれども、途中から鉾山で水銀が見つかったので、水銀産業で町が潤うわけですが、それがまた衰退して、

経済的喪失になった。「なんかウチの村はもう終わりかな。何があるのだろう、ウチの村で」というマインドの時に、まず「①高い地域意識が生む、コモンズの精神を持つ主体の活動」ということで、荒廃した栗林をどうにかして復活させたいという、栗林を自分ごとと考える強い精神ですね。そして、その熱い思いに「②自立した公が促すボトムアップ型共同行動」、平たい話が補助金を出そうよと。栗の活性化のために、この場合はトスカーナ州ですけれども、3,800万円の補助金が出ました。そして、「③オープン・アクセスな社会関係資本を守り、管理する」。いわゆるその栗を資源としたモノを守って、製品として発展させていくという段階ですね。この場合は、栗の加工品やコスメも作ろう。あと、栗街道を整備して、ちょっと観光チックにしようということです。それが合わさると、「④経済価値と外部経済価値の最適融合化による内発的発展」です。木村先生って難しい言いまわしをされます。私がイタリアへいたときに、車でアテンドした経験があるので、個人的に存じ上げてはいるのですが…。具体的に言いますと、栗の自動選別や包装をすることで作業が効率化して、衛生面と価格において消費者もメリットを受ける。あと、栗収集の車を購入したので、こちらも環境保全と効率化。廃材によるバイオマスで、循環型農業が達成されるということで、要するに栗の経済価値も上がるし、持続化というメリット、あと、循環型農業という付加価値もつきましたよということを、ここで言っています。そして、最終的には、「⑤価値のバランス管理能力を習得し、地域の持続可能性につなげる」。祭りや栗料理といった伝統で、景観、アイデンティティ、ツーリズムを形成します。

結果、かつての資源である栗が、テリトリー内の内発的発生に転換。農業の経済価値と非経済価値を創出しながら、持続可能性を実現しました。ということで、この栗の事業は経済的にも潤ったし、あと、人との絆や伝統を再確認するという、ツーリズムを生み出したという、非常に良い結果になりました。

では、これを私の事例に当てはめてみようかなと。ちょっと強引なのですが、私の事例をこれから発表してみたいと思います。私は2016～2019年まで、地域おこし協力隊をしていたのですが、「つむぎプロジェクト」ということで、大殿らしいアートは何だろうということをいろいろ調べたら、一の坂川に蛍がいるじゃないかと思いついて、その蛍にちなんで「蛍かご」という、麦をクラフトにした渦巻き状の置物がありまして、虫かごなんですけれど。じゃあ、蛍かごをアートとして取り上げようということで、それで単にワークショップをしてもしょうがないので、何か山口市が一体になるような試みはないだろうかと思いました。まず、つくり方を学ばないといけないと思い、徳地の串地区でまだ蛍かごを作っている、むしろ、「蛍かごの名人」と崇められている池田貞子さんに頼もうと言って、蛍かご作りを教わりました。そして、その下の写真ですが、名田島の小麦を調達しまして、そして、大殿でクラフトのワークショップをするというストーリーを考えました。また、蛍のランタンを作ろうと思いついて、大殿の「ホテルを守る会」の岡田事務局長にランタンの灯りを提供いただいたりしまして、このようなプロジェクトを展開しました。

では、「つむぎプロジェクト」において、ちょっとごちゃごちゃ書き過ぎて分かりづらくな

りましたけれども、まず、「①高い地域意識が生むコモンズの精神」というのは元々、コモンズの精神を誰も生んでいなくて、今回の場合は②ですね。まず、山口市の事業ありき。②自立した公が、地域おこし協力隊を募集しますということでの呼びかけなので、今回は②が1番になります。大体、地域おこし協力隊の経費は、3年間で1,200万円くらいかかっていますけれども、半分が国の予算、半分以上を自治体で負担するような、確かそういうことになっていた気がします。それで、当時の観光交流課の課長が「どうしたら、粉川さんの大殿愛が目覚めるかな」という意図があったかどうか分かりませんが、大路ロビーという観光施設に派遣して、地元の人と触れ合う機会を半年以上持たせていただくわけですね。その間に私も大殿らしいアートはないかと探しました。それが①の上を書いてあるように、一の坂川周辺で蛸かごを活用した事業をしようということで、そして、ワークショップをしたら、交流人口が大殿で増えるというこのミッションには適うということで、めでたしめでたしで完結するかなと思ったんですけども、③ですね。やり方は先ほど言ったように、作り方は徳地の女性で、材料は山大の荒木先生とか名田島の中村さん、そして1人じゃ出来ないで「うずまきLifeArt」という、当時の協力隊員だった奥山さんに協力してもらったり。そして、①・②・③が合わさるわけですね。で、その合わさった後に④の左隣にある、事業をやっている途中で、マンパワー不足、これを1人でやっても、技術の伝承までするのは無理だと感じるんですね。1人で麦わらの処理をするのにすごく限界があって、1人で市役所の部屋の外でちまちまと麦わらを処理している私を見たことがある人もいかもしれませんが。あと、ワークショップ時にもマンパワー不足を感じていました。そして当時、観光交流課の主幹さんが「粉川さんがいなくなっても、この事業を続くと良いな」というような、難題を途中から言い出されて、「ええっ」って。「持続可能ってどうするのだろう」なんてことを思いながら、その④の右隣ですね。マイスター制度をスタートしました。きっちり蛸かごがつくれる人を伝承したいということと、ひょっとしたら私が辞めても何とかこの人たちなら続けてくれそうかなということもちょっと期待しつつ、マイスター制度をやることにしました。そうこうしているうちに、他の吉敷地域とか名田島地域の交流センターやコミュニティ協議会からワークショップの依頼が来まして、この知的財産の共有と交流の場を創造することが出来ました。また、蛸かごを大殿の軒先にディスプレイしました。そして、麦わらというのがエコで豊かになるというメリットが分かりました。最後、「⑤価値のバランス」ですね。こちらは、また、右側に記載しているように、結局、マイスターたちが自立して、「粉川さんはレストランをやるらしい。私たちは任意団体『つむぎラボ』を立ち上げて、継続していこうよ」とに言ってくれて、「粉川さんがいなくなっても問題」が解決する運びになりました。今ではいろいろなところから声がかかって、ワークショップをやったり、クリスマス市や、KDDI維新ホールで巨大なヒンメリという吊るし飾りを手掛けたりとか、大忙しでやってくださっています。そして、町家のディスプレイ。5月に、大殿地域の豎小路とか一の坂川沿いに蛸かごをディスプレイするのですけれども、もう今年で5回目ぐらいになり、毎年恒例行事になりまして、プレスリリースをするので、NHKとかが取材してくれるのです。なので、大殿の初夏の風物詩として定着しました。また、マイス



ターたちは蛍かごの販売やワークショップなんかで活動資金があつて、継続的に事業も出来ています。

ということで結果、ゴミ同然の資源<麦わら>の活用が出来ました。と言いつつ、麦わらは、例えば、そのまま漉き込んで、畑の肥料にしたりということで、決してゴミ当然ではないんですが、価値が分からない人にとっては価値のないもの。それをテリトリーオ「山口市一帯」これですむぐんですよという、その内発的な発展に転換することに成功しました。

近い将来は、恥ずかしい話、実は大殿でのワークショップは、地域交流センターではほとんどやったことはなくて、それをちゃんと大殿地域の子どもたちにも伝えようよと最近、地域の方が言ってくさっています。

あと、「大殿ホテルを守る会」の岡田事務局長問題。岡田さんは高齢ですが、春先には蛍の幼虫の上陸の日をちゃんと特定するというので、雨が降る夜に上陸するらしいんですけども、それを見に行ったりとかですね。78歳の人には結構大変な仕事なので、もう本当に生き字引のような岡田さんが引退された後もちゃんとしなさいといけないという課題はあります。

最後のスライドになります。山口市の農山村エリアですけれども、疲弊した農業エリアをEU(イタリア)は今までどうしていたか、ということです。1970年代から、北米型の大量生産型農業というのは、EUの狭い土地ではもう見合わないということが最初から分かっています。でしたら、経済、社会、環境というこの3つのバランスを回復させ、景観を守ったり、保全をする農村復興をしようじゃないかということ、最初から思っていた。なので、1970年代に地方分権が進んで、地方都市の価値がアップすると同時に、農村の価値も上がります。日本も一時上がっていたのですけれども、バブルで人々が浮かれたせいで、地方都市の価値アップがなくなりました。EUは、その時代から、「地方都市+農村の一体型ツーリズム」に転換、発展しています。宿は農村にとるけど、そこから車で都市部を観光しようというような、そんな感じです。「1」農村の景観、文化、食に重点を置き、農作物以外からも収入を得る」。これは、とても大事なことですね。なので、農家民宿などのアグリツーリズムへの補助金や、環境保全への補助金を州やEUが出して、農作物以外での代価を得るように力をつけていったわけです。そして、「2」農作物の付加価値を上げるためにGI認証」。地理的表示ですね。これは徳地のやまのいもなどが認証されているのですけれども、そういう制度もある。

次に、その下ですね、「中山間エリアの観光施設に、地域振興の視点はあるのか？」ということで、例えば、ワイルドバンチのような野外音楽フェスを開催するときとか、あとは「重源の郷をリニューアルします」というとき、果たして、そのイベントや施設に、“地域振興の視点”まで盛り込んでいますか？ということですね。それらを地域の人たちが儲ける機会としたり、農作物を知ってもらう機会として、地域を復興させるんだよという視点がたぶん今、欠けていると思います。なので、観光交流課は観光だけをやっていれば良いのではなく、もうそんなのは古い。縦割り行政ではなくて、観光的なものをする事によって、周りの農村の振興ですね。あとは、外国人とか、他の課題も一緒に解決出来

ないかという、広い視点を持つことが大事です。でも、そうは言っても、なかなかそういう視点は普通の役所の職員の方は持てないので、市役所でも勉強会を定期的に実施したらいいのではないかと思います。

そして、現在は、「サステナブル・ツーリズムモヘ」ということで、こちらの記事に興味のある方は、QRコードを参照ください。

発表は以上になりまして、宣伝です。「ハロウィンディナー～魔女からの手紙～」こちら、残り2席になっておりますので、御興味ある人は、明後日の夜、2人分お席がありますので、お問い合わせください。以上です。

#### 【会長】

ありがとうございました。御質問ありますか。

大変面白いお話でした。蛍かごは、本物の蛍が入っている虫かごなのですか。

#### 【粉川委員】

そうです。蛍を閉じ込めて、下が空洞になっているので、そこに草を詰めて、虫かごにしています。

#### 【F 委員】

すみません、質問というより、あわせて宣伝させてください。

この蛍かごなのですけども、私ども新山口駅観光交流センターにて、1000円で販売しています。御興味のある方はぜひ、いらっしゃってください。

### (7)手嶋 郁夫 委員からの話題提供

#### 【手嶋委員】

山口県民局長の手嶋と申します。

私からは現在、県において策定を進めております、県の総合計画となる「やまぐち未来維新プラン」の素案の概要につきまして、御手元にお配りしております「資料5」に基づきまして、簡単に御紹介させていただきます。

最初に、新たなプランの名称についてです。県では、4年前の明治維新150周年記念の年に策定した総合計画の名称を「やまぐち維新プラン」としておりました。その後、コロナ禍の影響によりまして、人々の意識、価値観の変化、デジタル化、脱炭素化などの社会変革がありました。新たな計画では、こうした社会変革を踏まえまして、改めて、本県の新たな未来に向けた県づくりをスタートさせるということで、プランの名称を「やまぐち未来維新プラン」としたところでございます。1ページにありますとおり、計画は、第1章から第8章までで構成されております。

2ページを御覧ください。「第1章 はじめに」では、プラン策定の趣旨や、プランの性格と役割、プランの計画期間について記載しております。この中ほどに「『3つの維新』を

さらに進化させ・・・」とありますが、これまでの計画におきましては、産業力を伸ばす「産業維新」、人や物の流れを創出・拡大する「大交流維新」、安心して暮らせる「生活維新」を3本柱として取り組んでまいりましたが、この方向は継承することとし、より強力に進めていこうとしております。計画期間は今年度から2026年度までの5年間となります。

3ページを御覧ください。「第2章 山口県の現状」では、本県の人口減少の現状や、本県を取り巻く環境、本県が有する「強み」と「潜在力」を分析しております。

県の人口は、2020年に134万人まで減少し、このまま推移しますと、2045年には今より30万人減少する見込みです。また、若年層の女性人口の割合が全国に比べて低くなっております。4ページを御覧ください。人口減少のうち、自然減には歯止めがかかっていない一方で、社会減につきましては、コロナ禍を契機に変化が出てきておりまして、縮小の傾向が見られます。5ページを御覧ください。本県を取り巻く環境として、コロナの影響により、地方移住への関心が高まり、また、デジタル化、脱炭素化といった社会経済情勢が変化してきております。6ページにまいります。6～8ページまで産業面、交流面、生活面での、本県の強みと潜在力をお示ししております。6ページの産業面では、本県は、第2次産業の比率が高く、1事業所当たりの製造品出荷額が、全国第1位となっております。7ページは交流面ですが、コロナ禍により観光客は大きく減少しておりますが、本県には多数の観光資源があり、移住の相談件数も伸びております。8ページは生活面ですが、出産・育児等の理由から、30代を中心に働く女性が減る「M字カーブ」の解消・取組の推進が求められております。

9ページを御覧ください。「第3章 県づくりの推進方向」です。基本目標である「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に向けまして、先ほど申しました3つの柱である「産業維新」、「大交流維新」、「生活維新」の3つの維新をさらに進化させることとしております。10ページを御覧ください。3つの維新のさらなる進化にあたりましては、コロナ禍などの社会変化等を踏まえまして、「安心・安全」、「デジタル」、「グリーン」、「ヒューマン」という4つの視点でプロジェクトや重点施策を進めていこうとしております。この4つの視点というのが、これまでの計画になかった新しいものとなります。

11ページは飛ばしまして、12ページを御覧ください。「第4章 直面するコロナの危機の克服」ということで、コロナの危機を克服するため、県ではこれまで、市町や医療機関、関係者等と一丸となって、「県民の命と健康を守る」取組を推進するなど、様々な対策を進めております。今後も、感染状況や社会経済情勢に応じて、必要な対策を講じることであります。この部分につきましても、今回の計画で新たに盛り込まれたものでございます。

13ページを御覧ください。「第5章 重点的な施策の推進」ですが、14～33ページにわたり、3つの維新を進めるための20のプロジェクトを設けております。時間の関係もありますので、それぞれ簡単に説明させていただきます。

まず、産業維新の推進に当たり、5つのプロジェクトを設けています。

14ページは、「新たな価値を創造する産業DXプロジェクト」で、デジタル技術を活用

した生産性の向上や新たなビジネスモデル、さらにその創出支援等の取組を通じて、本県の産業力を伸ばしてまいります。15ページは、「未来へ挑戦するグリーン成長プロジェクト」で、カーボンニュートラルへの対応が喫緊の課題となる中、産業分野における脱炭素化に向け、マネジメント体制の強化や総合的な戦略の策定等を進めるとともに、関連施策の推進により、2050年カーボンニュートラルに挑戦してまいります。16ページは「時代を勝ち抜く産業力強化プロジェクト」で、本県の基幹産業の競争力が高まるよう、道路や港湾等のインフラ整備をするとともに、戦略的な企業誘致を推進してまいります。17ページは、「中堅・中小企業の『底力』発揮プロジェクト」で、本県経済を支える中堅・中小企業が成長し、雇用を生む力を発揮できるよう、新たな取組への挑戦や、創業・事業承継などに対する支援を行ってまいります。18ページは「強い農林水産業育成プロジェクト」で、農林水産業の担い手の安定的な確保を図るとともに、需要拡大や供給体制の強化を進め、強い農林水産業を育成してまいります。

19ページからは、大交流維新を推進するためのプロジェクトで、4つのプロジェクトを設けています。19ページは、「交流拡大による活力創出プロジェクト」で、山口きらら博記念公園を活力創出の拠点と位置付けまして、様々なイベントの実施や、必要な施設整備を図りまして、新たな県民の活力を創出してまいります。

20ページは、「新たな観光県やまぐち創造プロジェクト」で、本県ならではのツーリズムの創出や、ビッグデータを活用した戦略的なプロモーションの展開等を通じまして、県内外から選ばれる「新たな観光県やまぐち」を創造してまいります。21ページは「国内外での市場拡大プロジェクト」で、県産品や農林水産物、県内企業の技術などについて、デジタル技術を活用して、大きな需要のある大都市圏や海外への販路開拓を進めることとしております。22ページは、「新たな人の流れ創出・拡大プロジェクト」で、テレワークなど新しい働き方の普及や地方移住への関心の高まりなどを捉えまして、若者や子育て世代を中心にした移住・定住の促進を図ってまいります。

23ページからは生活維新を推進するプロジェクトで、19のプロジェクトを設けております。23ページは、「結婚、妊娠・出産、子育て応援プロジェクト」で、若い世代が結婚の希望を叶えまして、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりや、周産期・小児医療の提供体制等を図るなど、社会全体で子育て支援に取り組んでまいります。24ページは、「やまぐち働き方改革推進プロジェクト」で、働き方改革を行う企業への支援や、女性や高齢者、障害者等が働きやすい職場環境づくり等の取組を推進してまいります。

25ページは、「次代につなげる持続可能な社会づくり推進プロジェクト」で、省エネ性能に優れた住宅の普及など、暮らしに密着した脱炭素化の取組を推進するとともに、クリーンエネルギーの供給など、エネルギーの地産地消の取組を進めてまいります。26ページは、「豊かで利便性に優れた暮らしづくり推進プロジェクト」で、地域社会のデジタル化を進めることにより、県民の皆様が暮らしの豊かさを実感できる取組を進めてまいります。27ページは、「新たな時代の人づくり推進プロジェクト」で、市町や学校、地域等と連携しながら、本件の若者が様々な課題に対応し、チャレンジできるよう、時

代に対応した人づくりを推進してまいります。28ページは、「誰もがいきいきと輝く地域社会実現プロジェクト」で、様々な活動の機会づくりや機運醸成などの取組を進めることにより、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、あらゆる人が活躍できるような地域社会を実現してまいります。29ページは、「安心を支える医療と介護の充実・強化プロジェクト」で、コロナの感染拡大の経験等も踏まえまして、県立総合医療センターの機能強化や、医療・介護人材の確保等の取組を進め、医療・介護提供体制の強化を図ってまいります。30ページは、「生涯を通じて健康づくり推進プロジェクト」で、県民誰もが生涯を通じて健康な生活が送れるよう、様々な健康づくりに向けた取組や、健康づくりを支援する環境づくりを進めてまいります。31ページは、「災害に強い県づくり推進プロジェクト」で、自然災害の発生に備え、自主防災組織の活性化や、河川や土砂災害防止施設等の整備など、ハード・ソフト両面から、防災・減災対策を進めてまいります。32ページは、「暮らしの安心・安全確保プロジェクト」で、食や消費生活の安全確保、犯罪や暴力、交通事故から県民を守るための対策を推進し、県民が安心安全に暮らせる生活を実現してまいります。33ページは、「人口減少を克服する地域づくり推進プロジェクト」で、中心市街地や中山間地域等の元気を維持・創出する地域づくりを推進するとともに、農業試験場等跡地の利活用を通じ、新しいまちづくりを進めます。

以上が20のプロジェクトになります。

次に、34ページですが、20の維新プロジェクトと4つの視点、そして、SDGsの17のゴールとの関連を整理しております。

続いて、35ページです。「第6章 持続可能な行財政基盤の確立」についてです。ここでは持続可能な行財政基盤を確立するため、引き続き、効率的な行政運営や財政基盤の強化に取り組むこととしております。

続いて36ページを御覧ください。「第7章 施策の総合的な推進」についてです。ここでは、基本目標に掲げた「安全で希望と活力に満ちた山口県」の実現を目指すため、政策の柱である3つの維新のもとに、県政の各分野で進める施策を体系化しております。

次に、37ページは、「第8章 プランの着実な推進」についてです。プロジェクトの着実な推進を図るため、県庁内に「山口県活力創出本部」を設置し、進行管理を行うとともに、外部の有識者で構成する「山口県活力創出推進会議」で御意見を伺い、成果の検証を行ってまいります。また、進行管理におきましては、プロジェクトごとの進捗を数値目標の達成状況等により把握し、成果の検証を行った上、施策や事業の改善につなげていくこととしております。

最後に、38ページの計画の策定スケジュールについてです。4月の策定方針の決定を踏まえまして、骨子案を作成し、7月には県民の皆様の御意見をいただくため、県内数ヶ所です「元気創出！どこでもトーク」を実施いたしました。山口県民局内におきましても、山口市、防府市の御協力によりまして、7月25日に実施しております。このたび、素案ができましたので、9月県議会に報告するとともに、現在、パブリックコメントを10月1日～11月10日の間で実施しております。こうした手続きを経まして、来月には、最終案を作成し、県議会に報告した上で、12月に策定・公表とすることとしております。

以上、簡単ではございますが、県の総合計画となる「やまぐち未来維新プラン」の素案の概要について、御説明させていただきました。御清聴どうもありがとうございました。

**【会長】**

ありがとうございます。

すばらしいまとめ方で、ありがとうございました。何か御質問等ございますか。

**【E 委員】**

この協議会は、市の総合計画の協議会なので、県の未来維新プランの内容というよりは、市の総合計画に関することでお伺いします。今、お話を聞いていて、はっとしたのが、「市町間の広域連携によるまちづくりの取組に対する支援」という記載があったのですけれども、山口市の後期基本計画の骨子にはおそらく、市町間の連携ということはなかったように思うのですけれども、県の中で、市町間でどのような連携を想定されていて、どのような連携を支援しようとされているか教えていただけないでしょうか。

**【会長】**

何ページでしょうか。

**【E 委員】**

33ページの「快適でにぎわいのあるまちづくりの推進」のところとか、36ページの「行財政基盤の強化」で「自治体間の連携強化」がありまして、県の役割というのは、自治体間の連携促進というところがひとつあるかなと思いましたので、今回、山口市総合計画でそのような視点を欠けているのなら、重要かなと思い、質問させていただきました。

**【事務局】**

失礼いたしました。資料2、骨子案の7ページを御覧いただければと思います。①の6つ目に、「山口県央連携都市圏域における更なる取組の必要性」ということを書いております。この中身を申し上げますと、県央部の7市町で広域連携を進めていますので、山口市のほうでも広域連携をやっていることが分かるように、丁寧な表現にしていきたいと思います。

**【手嶋委員】**

今、短時間の中で説明しましたので、項目の羅列のような説明になってしまいました。実際、山口県のHPを見ていただければ、「パブリックコメント」というのをクリックしていただければ、この計画の本体が出てきます。計画の本体自体は、300ページを超えるような内容になっています。例えば、この資料は、重点プロジェクトが1枚紙になっていますけれど、計画の本体は、もっと詳しい7～8ページぐらいの内容となっております。

すので、そこに対してまず、御意見があれば、パブリックコメントをもって意見を出していただくことも考えられますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【会長】

他によろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

それでは最後になりますが、郡委員から話題提供をよろしくお願ひします。

(8)郡 さやか 委員からの話題提供

【郡委員】

山口県立大学の郡さやかです。

私は、若者の視点から、「20・30代の転出について」と、「脱炭素を前提としたまちづくりについて」、発表させていただければと思ひます。

まず、自己紹介です。私は、鳥取県米子市出身で、現在、山口県立大学に通う、社会福祉学科4年の21歳です。私が社会福祉学科を受験した理由は、当初、児童虐待に関心があり、社会福祉の分野に進むことを決めました。現在、気候危機に強い関心を持っているという感じですが。今日の主な発表内容としては、若者の視点から20・30代の転出についてと、脱炭素を前提としたまちづくりについて、発表させていただきます。

最初に、20・30代の若者の転出についてですが、私の周りの学生10人ぐらいに「就職が決まったか」と聞いたところ、山口県出身は山口県で、鳥取県出身は鳥取県なのですけれど、地元に戻って就職する理由を聞いたら、1番最初に多く挙げたのが、「家族がいるから地元に戻る」ということでした。2番目が「地元で恩返しをしたい」というものでした。「鳥取県はあまり大学がないので、県外の大学に行って、学んで、鳥取県へ帰るといふ子が多い」と、高校時代の先生も言っていました。3つ目は、「県の奨学金を借りているから」。反対に、地元から離れて就職する理由としては、「地元よりも、人や環境が整っているから、自己実現が出来る」というので福岡へ行く友人や、「交通の便が良い」というので広島に行く人や、あと最後は、「警視庁へ行きたい」という友人がいて、「その目標のためには東京しかない」という、「やりたい仕事の就業地だから」という理由で、地元から離れて就職する人がいました。

私も含めてなのですけれど、馴染みのある土地に就職をするといふ人が大切にしている価値観としては、やはり、家族とか地元への愛着があるのかなと思つたので、「帰りたいと思える場所」であるといふことが、就職をする上で、大事な決め手になるのかなと思ひました。

次に、私が考える山口の魅力なのですけれど、活気のある商店街だとか、カフェが多いこととか、あと、一の坂川など自然豊かといふこと。あと、私が1番好きなのが、JR山口線のオレンジ色の1両列車がすごく好きなんです。このように、山口県に元々住んでいる人とか、山口に住んだことがある人にとつて、いつまでも心に残る“第2のふるさと”になることが出来たら、新しい若者を呼び込んだり、1回転出した方をもう一度呼び戻すことが出来るんじゃないかなと思ひました。ここまでが20・30代の転出についてです

2つ目の脱炭素を前提としてのまちづくりです。まず、私は、社会福祉学科に通っているのに、何で環境分野なのだろう、と思われた方も多いかと思うのですが、私が環境問題に関心を持った理由は、元々、地元が自然豊かなので、環境問題には関心があったのですが、大学の副専攻で環境のことを学んで、学んでいくうちに「こんなにヤバいことなんだ」と思いました。今まではもっと遠い話と思っていたのですが、今、私たちが直面している問題なんだと実感したのがきっかけです。もうひとつは、地球環境が安全でないと、人々の幸せとか、社会の幸せ—私の専攻である「福祉」というのも成り立たなくなるんじゃないかと思ったのが、環境問題に興味を持ったきっかけでした。

この協議会の最初のほうに今村先生からの発表があったかと思うのですが、現在、世界の平均気温は300年前と比べて約1℃上昇していて、温度が上昇するにつれて、今まで10年に1回しか発生しなかった災害などの発声確立が2.8倍になり、1.5℃で4倍、2℃で5.6倍…というように、どんどん影響が大きくなっていくというので、これから生きる若者や子どもたちが1番影響を受けてしまいます。今の若者や子どもたちには、意思決定権はない。でも、今の社会の負荷を負うのは彼らという、そういう矛盾があるんじゃないかなと思いました。

私は持続可能性のあるまちづくりを考えていくなら、脱炭素は大前提なのではないかと考えます。世界の平均気温の上昇を1.5℃で抑えるには、世界全体で、2030年までにCO2排出量を45%減で、2050年にゼロにしなければいけないとされています。これまで日本は、大量のCO2を出して来たので、公平性を考えたら、2030年までに2010年度比120%削減しないといけないという研究もあります。今の社会のままだったら、確実に持続不可能で、今を生きる子どもたちや、これから生まれてくる子どもたちが「自分はおばあちゃんになれるだろうか」とか「自分の夢を叶えられるだろうか」、「そもそも、生きているのだろうか」と、生きていくことに対して不安を抱かなくても良いような社会にしていくことが必要なかなと思いました。

例えば、世界の平均気温をの上昇を産業革命前と比べて1.5℃に抑えるためには、2030年までにハイブリッド車を含むガソリン車の生産と販売を禁止すべきという提言があります。山口市は、自動車の保有台数が多く、ガソリン購入量も多いと思います。今、山口市において車が主要な移動手段となっているので、これを徒歩や自転車やEV、公共交通機関が主要な移動手段となるように、変革をしていくことが出来るのかなと思いました。例えば、徒歩・自転車優先の信号機を整備して、「車より徒歩や自転車のほうが、早く目的地に着ける」というようにしていくことも出来ると思います。例として、デンマークのコペンハーゲンという“世界の自転車都市”を目指している町があるのですが、そこでは、自転車が通勤・通学の5割を占めていて、電車やバスに自転車が持ち込めたりというように、市民の中で自転車が主要な交通手段となっているし、その自転車に乗るときのルールというのも、「追い抜きは左から」とか「進路変更するときは手で合図する」とか、そういうルールが徹底しているので、自転車による死亡事故の発生率が最も低い都市でもあるようです。そういうようにして、自転車や歩行者優先の



道路整備をしていく。また、公共交通機関を拡充しても、どうしても不便というのがあると思うんですけど、逆に、もっと公共交通機関を便利にしていくことで、「案外便利だな」と、簡単にスムーズに移行できるようにするとか、EV購入の金銭的支援とかが出来るのかなと思いました。今、山口市も「ノーマイカーデー」を実施されていると思うのですが、「1人ひとりが心がけていきましょう」じゃなくて、まち全体が、脱炭素な生活ができるまちという、根本的に姿を変えていくということが必要なんじゃないかなと思います。

環境を守ることと、人中心の生活を推進することは、矛盾するという考えもあると思うんですけど、でも逆に、こうした変革をすることで、車を持ってない人にとっては生活がしやすくなるし、車の交通量が減ったりすることとか、公共交通機関の運転手は“運転のプロ”なので事故が減ったり、通勤・通学の安心につながるのかもしれないし、騒音や大気汚染が減ることで、健康被害が減少したり、運動することによる生活習慣病の予防や改善が期待できる、あるいは、駐車場をつくる代わりに、子どもたちが思いっきり遊べる公園をつくることが出来るかもしれないし、そうすると、人と人が生で触れ合う機会が増えるので、そこから何かまた新しい交流が出来るのかもしれないなと思いました。

最後に、「豊かな暮らし」とは何かということで、今までは大量生産・大量消費が豊かな社会であるという価値観だったのかもしれないですけど、結局、大量に物を作るとか、大量の資源を使って大量に消費することは、大量に物を捨てることになるので、今の環境問題が起きているのかなと思っています。「豊かな暮らし」とは何か、何がどうなることが「豊か」なのか、その「豊かさ」は誰のためなのかとか、そういうことを考えていくことが必要なのかなと思いました。今は、人間の便利さや効率性を得て、人は生きやすく、ある意味人が豊かに暮らせるような社会になった。でも、その代わりに、持続可能性が失われつつあると思うので、「本当の豊かさ」って何か、本当にこれって持続可能なかというのを、もっと根本的に考えていく必要があるのかなと思います。今の生活スタイルのまま、脱炭素を進めるのももちろん大事だと思うんですけど、ガソリン車をEVにするとか、そもそも、車が主要な交通手段で道路をつくり続けることが持続可能なかを考えた時に、EVをつくるとしてもコバルトとカリウム電池というのは、発展途上国と呼ばれている国から採取していて、その地域は元々、乾燥した地域なのに、毎秒すごい水を採取して、環境破壊が起きているというので、日本もこういう気候危機を大きくしてきた国として、「そもそも」というところから考えて、脱炭素を進めていくことが持続可能なまちづくりだし、それが若者や子どもたちにとって良いまちを残していくことなのかなと思いました。以上です。

【会長】

郡委員、ありがとうございました。

何か御質問ございますか。

【G 委員】

ありがとうございます。おそらく郡委員の次に若者かなと。30代の私が近いわけですが、心に響くプレゼンテーションで、こういう若者がきっと未来をつくっていくのだろうなど感心したところでした。

これまで、総合計画についていろいろと議論をしてきたわけですが、それと合わせて話を聞いたときに、やっぱりちょっと総合計画が総花的かなというのを少し気にしています。たぶん、自治体の計画はそういうものだと思うのですが、こう新しさとか、山口らしきみたいなものが少し欠けているのではないかなと思って。今、郡委員が未来の話、脱炭素の話とか、先ほど農村の話も出ましたけれども。「進んでいるな」「未来だな」「山口市って未来があるのだな」って思うようなアピールも、市としてしていても良いかなと思いました。

お名前を忘れてしまったのですが、NHKで世界の著名な科学者が「これからは倫理の時代だ」と言っていて、倫理がいろいろな経済や産業、人々の暮らしをつくっていくというようなことを言っているの、脱炭素とか、農村まちづくりの可能性とか、そういったことがおそらく経済的にも社会の骨組みにも、これからなってくるのかなと思うので、少し未来的な山口らしさといったものをどう押し出すのかということ、これから議論していても良いのじゃないかなと思いました。

山口市はとても魅力的で、たぶん、皆さん住んでいらっしゃる方はあまり自覚がないかもしれないですが、私は福岡出身で、元々、山口市のイメージが全然なくて、就職活動をするとき、初めて関門海峡を車で渡って、山口ってこんなところなんだと思ったのですが、先ほど、「歩いて暮らせるまちづくり」のお話がありましたけれど、既に結構歩いて暮らせるまちだったりして、家族を呼んで、ここだったらおばあちゃんと暮らせるとか、買い物ができるとか、温泉もあるし、カフェもあるし、駅もあるしと思っています。そういう既に持っている魅力をアピールしつつ、未来の山口市のビジョンみたいなものを押し出してしていくと良いのじゃないかなと思いました。

すみません。郡さんだけではなくて、いろいろな発表を聞いて思ったことをまとめたので、ちょっと支離滅裂になりました。

【会長】

ありがとうございます。ほかに何かありますか。

自分のことを考えて、21歳の時にこんな委員会に出て発言することができたんだろうか、と思うのです。今回、こういう協議会に入ってみて、御感想はいかがでしょう。

【郡委員】

協議会に参加する前は、行政の計画なので、もっとお固くて、誰かが発表してもみんなずっと下を向いて誰も発言しないような、閉ざされたイメージを持っていたのですが、先ほど、「皆さん、質問ありますか」というときすぐさまどなたかが発言されたりとか、思いをぶつけたりとか、こんなに議論が活発なんだというのは、すごく良い意味で

のギャップだったなと思いました。

でも逆に、皆さん、感じていらっしゃるかと思うのですけれど、やっぱり時間がないという印象です。前回、今村先生もおっしゃったことですが、30年後50年後、どういうまちづくりをしていくのかというのを、話し合う必要があるというようなお話があったかと思います。でも、この議論は、時間的にかなり厳しい。時間というものに縛られる中で、計画をつくっていくことが目的になっているなど感じて、それで本当に良いのかなというようなことは、今までを通して感じたことです。

【会長】

ありがとうございます。一番若い人の意見です。よろしくお願いします。

他によろしいですか。ありがとうございました。

### (9) 意見交換

【会長】

それでは、本日の次第の9番目の意見交換に行きたいのですが、素晴らしい発表もいただいたところで、何かほかに言い残したことや、後期基本計画の策定に関しまして、注意したほうがいいというような御提言等ございますでしょうか。

今日、資料をいただいておりますので、その資料をまた見ていただいて、コメントシートを作っておりますので、このコメントシートに御記入いただいて、御提出いただければ、それぞれの対応をすると聞いておりますので、よろしく願いいたします。

今日も、共につくる未来講話会の資料の整理の仕方で、グラフィックレコーディングという言葉が入っています。これは今起こっていること、議論していることをリアルタイムに絵にしてまとめるというようなことで、面白いまとめ方だなどと思っています。これをどう上手く使うかというのは、これから市の能力にかかっているように思いますけれども、ぜひこういう新しい取組としてぜひこれから、やっていっていただければなというところでございます。

それでは議題は終わります、4番目、今後の日程に関して、事務局からの説明をよろしくお願いします。

## 4 今後の日程

【事務局】

次回、第8回の協議会ですが、11月17日(木)午後3時から、場所は、防長苑で開催させていただければと思います。次回が「素案」というかたちになってまいります。

今回、この骨子案でお示しさせていただいた部分の後半の課題整理を、第1回から第7回までの皆さんからいただいた意見、事務局が考える課題、こうした問題点をひとつの皿に持ってきた、そうした作業を行ってきました。そして、次の第8回では、これを「素案」として昇華していくイメージなのですが、今日まさに手嶋県民局長さんから御発表いただいたような、県の素案の概要版のようなかたちで取組の方向性について

	<p>て、案として取りまとめて、そこに対して、御議論や御指摘をいただいでいくような会議になってくると思います。その中で、今日いただいたような、さらに重点的な山口市らしい見せ方をしていくべきではないかなど、そういったことも配慮しながら、来月に向けて事務局として、会長とすり合わせながら、取りまとめていきたいと思っておりますので、ぜひ次回、よろしくお願いいたします。</p> <p><b>5 閉会</b></p> <p><b>【会長】</b></p> <p>皆様、本当にありがとうございました。各委員からの話題提供ということで、ずっと御苦労をおかけしておりました。</p> <p>今回は、素案の提出ということですから、しっかり素案作りをしたいと思っております。また御意見等、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 第7回山口市総合計画策定協議会 説明資料</li> <li>・資料2 第二次山口市総合計画 後期基本計画 骨子案</li> <li>・資料3 安光 忠彦 委員提供資料</li> <li>・資料4 粉川 妙 委員提供資料</li> <li>・資料5 手嶋 郁夫 委員提供資料</li> <li>・資料6 郡 さやか 委員提供資料</li> <li>・資料7 委員名簿</li> <li>・資料8 配席図</li> <li>・資料9 意見書</li> <li>・参考資料 共につくる未来懇話会（若者・子育て世代）実施報告</li> </ul> <p>※資料3～資料6及び参考資料については、協議会委員のみへの配布としています。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>総合政策部 企画経営課</p> <p>TEL 083-934-2747</p>